

水と世界、私たちができること

沖縄県 豊見城中学校 二年 新垣 一花

皆さんは普段、何気なく使っている水について、じっくり考えたことはありますか。

私はこれまで、水は蛇口をひねれば出てくる当たり前の資源だと思っていました。しかし改めて水について調べていくうちに、それは様々な形で私たちを支える、かけがえのないものだと感じました。

水は「循環型」の資源と言われています。太陽の熱で蒸発し、空に冷やされて雨や雪となり、地面に降り注ぎ、川や海などへと流れ込む。この大きな水の動きのおかげで、私達は生活用水、農業用水、工場用水など様々な用途で水を利用することができなのです。そして、一度使った水も、適切な処理をすれば再び利用できる可能性を秘めていると私は考えます。

持続可能な水資源のために、特に重要だと私が思う要素が四つあります。

一つ目は「森林の保全」です。豊かな森林は、雨水をしっかりと貯え、ゆっくりと土壌に浸透させることで安定した水の供給に不可欠な役割を果たします。二つ目は、「水質汚染の進行」です。水は循環するとはいえ、私達の活動によって汚染されてしまうと、その恩恵を受けることが難しくなります。日本は過去数十年で重金属による汚染は大きく改善されましたが、未だに環境基準を達成できていない現状があります。三つ目は「人口増加」です。世界的に人口が増え続けるにつれて、一人当たりの水の使用量も増え、水資源への負荷はますます大きくなっています。四つ目は「気候変動」です。地球温暖化などの影響により、降水パターンが大きく変化することが懸念されています。集中豪雨が増える一方で深刻な水不足に陥る地域も出てくるかもしれません。

私は二つ目に挙げた水質汚染の改善点を中心に取り組むことで、水は

より持続可能な資源になると考えました。大切なのは水の循環の仕組みを知り、「循環するから大丈夫」と考えるのではなく私たち一人一人が生活の中で心がけたりすることが重要だと思います。そうすると水資源を大切にする意識が根付き、再利用といったプラスの考えへと繋がっていくのではないのでしょうか。

しかし、世界に目を向けると、私たちのように安全な水を当たり前に飲んだりできない人々がたくさんいます。その背景には、貧困、紛争、気候変動、インフラの未整備など様々な問題が複雑に絡み合っていると考えられます。安全な水を手に入れるために何時間もかけて水を汲みに行かなければなりません。その時間を他の仕事や教育に使うことができれば、貧困から抜け出すきっかけになるかもしれません。また、インフラが未整備の国では安全に管理された水を飲むことができず、九人に一人は汚染された水源から水を飲んでいると考えられています。この問題は、健康や生活の質の低下だけでなく、学校に通えなくなるなど教育にも悪影響を及ぼし、貧困の連鎖を生み出していると私は考えます。

日本に住む私たちは世界的に見ると、本当に恵まれた環境にいます。しかし、「たかが水」「循環できるなら別にいい」などと他人事のように考えてはいけけないのではないのでしょうか。確かに水は循環する資源ですが、気候変動が進んでいるのも、私達人間のせいなのです。これから先も長く生きていける未来を想像し、世界の人々と支え合い、協力していく必要があるのではないのでしょうか。私達が当たり前に使っている水について改めて考え、世界で苦しむ人々の現状を知り、自分ができることは何か考えること。その小さな一歩が、より良い未来へと繋がると私は信じています。